

子どものように

「負うた子に 教えられて 浅瀬を渡る」と言う古いことわざがあります。背中に負った小さな子どもから、思わぬ教えや助言をもらって物事がうまくいくこともあるという意味です。

先日、電車に男女の赤ちゃんを乗せた大きなベビーカーを押したお母さんが入ってこられました。「双子さんですか。」と聞きますと「はい。1歳2ヶ月です。」とのこと。二人の赤ちゃんは瞬きもせず、キラキラ輝く目でじっとこちらを見えています。^{きょう み しん しん}興味津々で何の疑いもないといった表情に惹きつけられました。ふと我に返り、自分はどんな顔をしているのだろうと思うと恥ずかしくなりました。色々な欲でいっぱい、何事も疑いの目で見てしまうような汚れた目をしていないか?と。幼子の瞳は、私の心を見透かす光のようでした。イエス様は弟子たちに教えられました。『子どもたちのようにならなければ、決して天の御国に入れません。』

Oh! Happy Day

キリストとの出会い



柴田 安之 ^{やす ゆき}

私とイエス・キリストとの出会いは20歳の時でした。私が働き始めて3年目のことです。会社の先輩に連れて行ってもらった教会は、中之島中央公会堂の一室を借りてキリストを伝えている小さな集まりで、教会という印象ではありませんでした。しかしそこで初めて聞いた「罪」という言葉が心に刺さりました。私はその時まで「罪」という視点で自分自身を見たことがなかったのです。

続いて語られた言葉は「イエス・キリストを信じるなら罪が赦される」でした。私は「こんなうまい話は無い」と思い、深く考えることもなく信じました。なんと単純な人間だろうと思われるでしょう。しかし、そのことが私にとっては良かったのです。もし真剣に考えていたなら、今の私はなかつ

たでしょう。そしてこの信仰の生活を続けていく中で、「罪」という言葉の深い意味が分かるようになってきました。信仰生活も既に58年目に入っていますが、この罪の深さが分かれば分かるほど、神様の罪の赦しがどんなに有難いことなのかがわかるようになり、神様の愛と恵みを日々体験しています。イエス様は人の罪の赦しのために十字架で死なれた後、三日目に死から復活されました。その復活されたご自身のいのちによって私を日々新しく生かしてくださっています。『たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。』と聖書に記されている通りです。更に新しくされることを望みつつ、うしろのものを忘れ、前のものに向かって進み続けたいです。